

■ 修士論文要旨

日本および中国における会計制度とその比較

—会計制度と文化的諸相の関係の視点から—

A Comparative Study on the Accounting Systems between Japan and China
—Focus on the Relation between the Accounting Systems and the Cultural States—

神奈川大学大学院 経営学研究科
国際経営専攻 博士前期課程

吉 田 英里奈

YOSHIDA, Elina

■ キーワード

日本、中国、文化的諸相、社会的価値、会計的価値

近年における企業活動および金融市場の急速なグローバル化に伴い、会計基準の国際的調和化が求められている。そして国際会計基準は、性質が異なる各国の会計制度が並存していた状態から、2005年の欧州、豪州等におけるIFRS (International Financial Reporting Standards : 国際財務報告基準) の適用をきっかけに全世界的な適用が促されるまでに発展した。現在では、世界120か国以上でIFRSが適用され、またはIFRSに準ずる自国基準として適用されている。わが国においても日本経済団体連合会が2009年に公表した意見書でIFRSの採用意義を、「財務諸表の比較可能性向上によって投資家の利便性を向上させ、多国間における企業の資金調達のコストを低減させるのみならず、企業経営のツールの共通化によって、グローバルな経営の効率化にも資する。グローバルな事業展開を行うわが国企業の海外子会社ではIFRSの採用が増加しつつあり、世界のグループ会社で、統一的に理解可能な会計基準を整備することは、グローバル全体の連結決算や経

営管理を行う上でも、日本企業のグローバル展開の基盤整備につながる。」と説明している。IFRSを適用することで、資金調達がしやすくなり、同一の基準で意思決定および業績の評価が可能となる。

しかしながらその反面で、会計基準の国際的調和化には限界があることも指摘される。環境要因が会計の発展に様々な形で影響を及ぼすことから、同一性を増すために、各国の会計基準間の異なる性質を相互に理解することこそ重要であるという指摘もなされている。経済発展には、環境や経済主体等のグローバルな文化形成要因が存在し、これらが会計制度の発展に大きな影響を与えていると考えられる。外部的影響である自然、貿易等は、生態学的影響である地理、経済、人口、歴史に作用する。このような要因は個人主義、権力主義、不確実性回避、男性化という社会的価値に影響を及ぼし、社会的価値を増強する。社会的価値が法制度、政治制度、所有関係などに影響を及ぼし、会計的価値および会計制度が形成される。

このことを考慮すると、各国の会計および報告制度の間で相違が存在することの根拠や合理性が理解できる。そこで本論文では、会計制度と文化的諸相の関係に視点をあて日本および中国の会計制度とその比較を行うことを目的とする。

第1章「日本における会計制度の形成と発展」では、日本の会計が形成された社会的な背景の経緯、およびわが国独自の会計が発達していった過程を明らかにするために、近代会計の導入と発展から「企業会計原則」の制度と発展、さらに「企業会計基準」公表と国際化対応までの過程を考察した。わが国における会計理論および会計制度は、ドイツの影響を強く受け、財務報告制度はイギリスの影響を受けている。さらにアメリカの会計の影響を受けながらも、わが国独自の会計制度を生み出している。現在IFRSの適用を容認しながらも、わが国固有の会計制度も適用されている。

第2章「中国における会計制度の形成と発展」では、第1章同様、中国の会計が形成された社会的な背景の経緯、および中国独自の会計が発達していった過程を明らかにするために、中国の会計制度の形成から社会主義市場経済体制における会計制度、さらに現在の中国会計制度の体系と国際化対応までの過程を考察した。中国は、ロシアの会計を参考にしていたが、社会主義の発展により、自給自足的自然経済から商品経済へ移行し、「社会主義経済は、計画的商品経済」であるという方針のもとに、中国独自の会計を発展させている。現在IFRSを適用し、中国の会計制度はIFRSとのコンバージェンスをほぼ達成しているが、IFRSとは異なる取り扱いをしている部分も残されている。

第3章「会計制度比較と文化的アプローチ」では、文化的諸相と会計制度の関係性、文化的アプローチの特性を考察し、それを踏まえたうえで日本および中国の会計規制の体系を比較した。会計の発展に、文化、経済、法律制度などの環境要因が大きな影響を与えていると考えられるため、文化的諸相と会計制度の関係を示すために、文化の会計制度への影響について考察し、会計的価値は

社会的価値とどのように関係するかを明らかにするためにグレイが行った4つの仮説検証を基に日本の会計規制の体系および中国の会計規制の体系を比較した。

第4章「会計制度の日中比較」では、日本および中国の会計基準の設定方法、財務諸表体系と資産会計について比較し、会計制度のダイバーシティーとユニフォーミティーについて考察した。グローバル化に伴い、会計基準を共通化し、財務諸表の比較可能性を向上させることが強く求められている。そのことによって、利害関係者の利便性を向上させ、さらには、多国間における企業の資金調達のコストを削減させ、国際的な経営の効率化にも資するとも考えられる。しかし、文化も違えば価値観も異なるゆえに、各国の要求と結びついた特定の要求が存在するため、各国ごとに会計基準が必要となると考える。